



上
ジョン・ウィリアム・
ウォーターハウス
〈フローラ〉
油彩・キャンバス
102.5×69.4cm
1868~84年

下
サー・エドワード・
コリーバーン＝ジョーンズ
〈フローラ〉
油彩・キャンバス
95.5×64.9cm
いずれも当館蔵

す描き方は、印象派や20世紀絵画に通じる新しい表現方法でした。
作者のウォーターハウス(1849~1917)は、イギリスのヴィクトリア朝に活躍した画家です。イギリスの近代美術のコレクションを有する当館では、もう一点、バーン・ジョー



(当館学芸員 永山 多貴子)

ンス(1833~1898)による同名の油彩画を所蔵しています。先輩的な存在であったバーン・ジョーンズの影響を受けて、ウォーターハウスは1880年代から神話や文学をテーマにした作品を手がけるようになります。同じく「フローラ」をテーマにしながら、バーン・ジョーンズは神殿を舞台に花の種をまく姿にあらわしました。余情をみせない女神の表情と落ち着いた色調があいまって、静謐な雰囲気的印象づけています。一方、ウォーターハウスはドラマ性を感じさせる場面を色彩豊かに描きました。素描力に裏打ちされた身体の表現も、画面の臨場感をいっそう高めています。跪きながら一心に花を摘むフローラ。うつむき加減の表情は、どんな心のあらわれでしょうか。ナルキッソスに報われない恋をしたエコーのごとく深い哀しみ…それとも、頬を染めて春の訪れに胸を踊らせているのかもしれない。様々な想像をかきたてる、魅惑の作品です。

「フローラ」は、ローマ神話に登場する花と春と豊穣を司る女神です。常春を表わすフローラは古くから人々に愛され、芸術作品のテーマやモチーフなどに繰り返し取り上げられてきました。西風の神ゼフュロスと結ばれたフローラから、たくさんの花が生

まれたと伝えられています。この作品では、フローラが森の中で春先に咲く花々を摘んでいます。いま、彼女が手にしているのが芳しい水仙の花、ほかにもアネモネらしい赤や紫色の花がみとれます。背景に描かれている川は、雪解け水を

抱いて流れを増しているのでしょうか。木立や草花、そしてフローラが纏うドレスにもご注目ください。弾むような勢いのある筆致が画面に動きをもたらす、フローラを主役とした春の息吹をいきいきと表わしています。こうした筆のタッチを生か